

神奈川県立がんセンター 病理診断科 短期レジデント研修評価表 (年次)				
レジデント	期 (氏名)			2022.3 ver.2
指導医				レジデントは太 枠内を記入
研修期間	年 月 日	～	年 月 日	
がん専門医研修における病理診断科医としての下記の研修目標について自己評価をするとともに、指導医による評価も受ける。				
A: 修得した B: ほぼ修得した C: 目標に達しない				
	自己評価	実施または術者	見学または助手	指導医評価
1. 以下の各領域の臓器の病態生理を理解している。				
1) 脳	A・B・C	/	/	A・B・C
2) 頭頸部	A・B・C			A・B・C
3) 肺・縦隔	A・B・C			A・B・C
4) 食道	A・B・C			A・B・C
5) 乳腺	A・B・C			A・B・C
6) 婦人科臓器	A・B・C			A・B・C
7) 泌尿器科臓器	A・B・C			A・B・C
8) 消化管	A・B・C			A・B・C
9) 肝胆膵	A・B・C			A・B・C
10) 骨軟部	A・B・C			A・B・C
11) 血液リンパ系	A・B・C			A・B・C
12) 皮膚	A・B・C			A・B・C
2. 以下の各臓器腫瘍を理解し、適切な診断を下せる。				
1) 脳腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
2) 頭頸部腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
3) 肺・縦隔腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
4) 食道腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
5) 乳腺腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
6) 婦人科腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
7) 泌尿器腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
8) 消化管腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
9) 肝胆膵腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
10) 骨軟部腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
11) 血液リンパ系腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
12) 皮膚腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
13) 原発不明腫瘍	A・B・C	件	件	A・B・C
3. 以下の病理診断医として必要な業務行程の理解ができている。				
1) 標本採取	A・B・C・症例なし	/	/	A・B・C
2) 受付	A・B・C・症例なし			A・B・C
3) 固定	A・B・C・症例なし			A・B・C
4) 切り出し	A・B・C・症例なし			A・B・C
5) 包埋	A・B・C・症例なし			A・B・C
6) 薄切	A・B・C・症例なし			A・B・C
7) 染色	A・B・C・症例なし			A・B・C
8) 細胞診	A・B・C・症例なし			A・B・C
4. 以下の病理診断に必要な手技を修得している。				
1) 解剖	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
2) 生検、手術材料	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
3) 迅速診断	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4) 免疫染色	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5) 細胞診	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
6) 遺伝子診断	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5. 技術開発、学会活動を行っている。				
		演者または 著者	共同演者 または共著者	
1) 技術開発	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
2) 学会発表	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
3) 論文発表	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
自由記載欄: (欄不足の場合は裏面へ)				
評価: 年 月 日 判定: 優・良・可・不可				
指導医記載欄:				

提出方法: レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1か月以内に総務企画課に提出すること。